

「アメリカ留学経験者の集い in 名古屋」 実施結果

開催日時：平成 28 年 10 月 12 日（水）18 時から 21 時

会 場：名古屋国際センター第二会議室

参加者数：5 名（女性 4 名、男性 1 名 30 代～40 代）

参加者の経歴：観光業、米国州政府関係、大手旅行会社社員、大学職員

参加者の留学経験：1 か月間～1 年間

（カリフォルニア州、ミネソタ州、ウエストバージニア州、ペンシルバニア州）

【議論のテーマ】

- （1）留学経験者の視点で考えるアメリカの魅力
- （2）アメリカへの渡航者増加に向けての提言

【参加者の主な発言要旨】

- ・留学経験者は、留学していた街に対して「第二の故郷」という感情を持ち、好きなままにしているという人が多く、留学先に再訪することも多い
- ・アメリカ留学の場合、勉強だけのために留学するという人は少数派で、「旅行＋現地生活＋勉強＝海外留学」というイメージ
- ・観光資源やアクティビティがとにかく豊富
- ・アメリカは外国からの来訪者が多いので、駅などの公共施設、観光施設での案内が分かりやすく親切であるなど、受け入れ態勢が整っている
- ・短期留学や旅行でのお試し渡航もお勧めしたい
- ・海外渡航経験がある方は、精神面の強さや柔軟性といった点で就職面接でも評価されることが多い気がする。アメリカ留学で言うなら「〇〇の本場、〇〇の先進国であるアメリカで学んできました」と言うのも強みになる
- ・アメリカの学校は色々な国からの留学生がいるため異文化理解の場にもなる

- ・20 年前と比べて情報収集や各種手配が飛躍的に簡単になっているにも関わらず若者の海外渡航が減少しているのは、物や情報が簡単に携帯で手に入るようになり、わざわざ飛行機に乗って出向くことに魅力を感じないかもしれないが、実際に行ってみないと分からないこと、感じられないことは沢山ある
- ・特にアメリカへの渡航者減少は著しく、2001 年の同時多発テロ以後、15 年が経過した今も戻り切っていない
- ・漠然と「アメリカは危険」「アメリカは高い」というイメージを持つ人が多い
- ・逆に漠然と「アメリカに行ってみたい」と思う人もいる
- ・ブランドイメージとして、「アメリカ＝カッコいい」というイメージ戦略も効果的ではないか
- ・渡航のメリット、渡航経験のメリットを紹介することで若者に響くのではないか
- ・若者が利用するメディア、特に SNS での情報発信・拡散が効果的であり、渡航経験者が積極的に発信することによる PR 効果は大きい
- ・アメリカは広すぎてイメージしづらいので、個別具体的に街、地域を紹介する取り組みで気軽に参加できるものがあると良い